

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2018（平成30）年第52週～2019（平成31）年第1週（12月24日～1月6日）

今週のコメント

～インフルエンザ～咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 注意報レベルを上回る 今後の動向に注意」

2018年第52週と2019年第1週をあわせて報告する。

2018年第52週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,454例、2019年第1週は910例であり、2週連続して減少した。第1週の定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.51、0.66、0.40、0.37、0.19であった。

インフルエンザの第52週の報告数は3,337例、第1週は4,422例、定点あたり報告数は年末年始休暇の影響にもかかわらず第51週よりも更に増加し、第52週は11.01、第1週は14.64と2週連続して注意報レベルの基準値である10.00を上回った。第1週では大阪市西部76.40、大阪市北部28.05、大阪市南部19.23、豊能12.97、南河内11.88、堺市10.69、北河内10.02と7ブロックで10.00を上回った。休暇が終了した第2週以降、インフルエンザは更に急増する可能性が高く、今後の動向には注意が必要である。

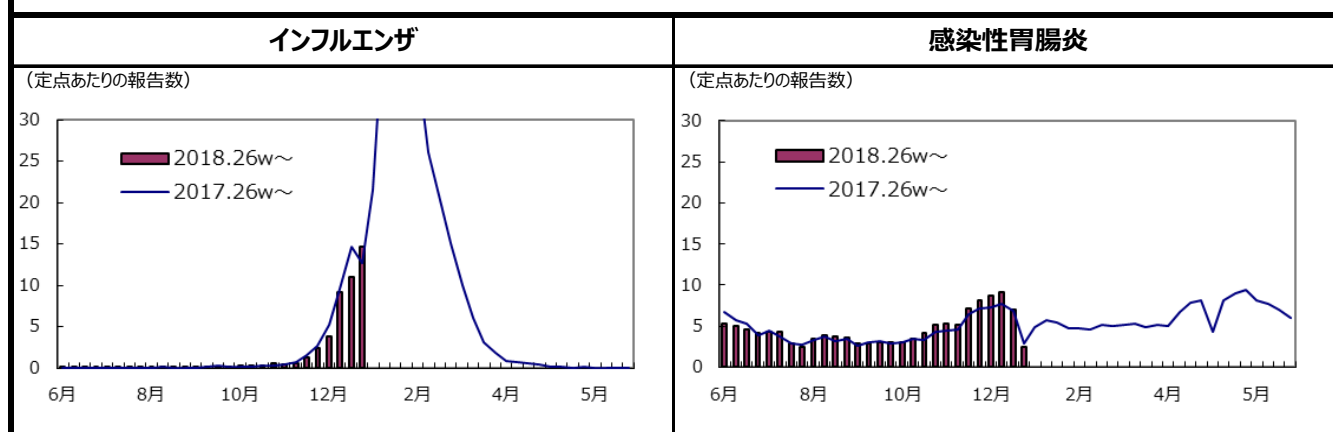


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019（平成31）年第1週12月31日～1月6日）

第1週の順位	第52週の順位	感染症	2019年第1週の定点あたり報告数	前週比増減	2018年第1週の定点あたり報告数	2019年第1週の年齢別患者発生数最大割合
1	1	感染性胃腸炎	2.51	64%減	2.92	1歳, 20歳以上_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	66%減	0.79	10-14歳_12%
3	4	RSウイルス感染症	0.40	44%減	0.93	1歳未満_52%
4	5	水痘	0.37	25%減	0.43	7歳, 10-14歳_15%
5	3	咽頭結膜熱	0.19	77%減	0.17	3歳_26%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	14.64	33%増	12.70	20歳以上_53%

第1週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 2018年の累積報告数は、過去4年間で最多でした

全数把握感染症

侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は、感染症法上、肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) による感染症のうち、この菌が髄液又は血液等の無菌部位から検出された感染症のことをいう。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、敗血症などが特に問題とされており、小児および高齢者を中心に患者報告がある。抗菌薬が有効であるが、近年薬剤耐性菌も多く報告されている。侵襲性肺炎球菌感染症の予防にはワクチンの接種が有効である。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

(累積報告数)

表 2. 大阪府全数報告数 (2019 (平成31)年 第1週12月31日～1月6日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	報告はありません										
4類感染症	A型肝炎	1			1						1
	デング熱	1							1		1
	レジオネラ症 (肺炎型)	2			2						2
5類感染症 (麻疹、風しんは除く)	侵襲性肺炎球菌感染症	1				1					1
	百日咳	5			2		1		1	1	5
結核 (2018年11月分)	結核 新登録患者数 : 167名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 66名) (府内累積報告数 1,673名、内 肺・喀痰塗抹陽性 652名)										
麻疹、風しん	麻疹 3名 (三島 1名、大阪市 2名、府内累積報告数 3名)										
	風しん 2名 (北河内 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 2名)										

(2019年1月8日 集計分)